

会誌「バイオマテリアルー生体材料」の電子出版について

前会長 塙 隆夫

文字や画像などの情報をデジタル信号化することで記憶媒体に保存し、インターネットを通じてこれらを配信する電子化技術の進歩は著しく、音楽や映像の世界では既に文化として定着しています。翻って、学会誌や論文誌などの国際的状況を見ても電子化の勢いは止まるところを知りません。このような状況の下で、日本バイオマテリアル学会の会誌「バイオマテリアルー生体材料」も電子化して、会員の皆様に配信することになりました。本件については、総会・評議員会、理事会、大会の挨拶などで度々説明させていただきましたので、既にご存じのことと思います。その前段階として昨年の第39回大会で予稿集の電子データ化とWEB配信を実施いたしました。現在までのところ、本件に対するご批判はいただいておらず、ほぼ抵抗なく受け入れていただけたようです。この勢いに乗じてという訳ではありませんが、会誌の電子出版に踏み切らせていただくことになりました。同時に、過去の会誌も全て電子データ化して保存することにしております。

言うまでもなく、1979年1月1日の会誌「生体材料」の第1巻第1号の発行以来、会誌は印刷された雑誌として紙媒体で発行し郵送されてきました。もちろん、発行当時の凡そ40年前はまだ大型計算機で計算をする時代で、PCという概念も知られておらず、書籍や雑誌を電子化することなど想像もつかない状況でした。書籍や雑誌というものは、手元においてばらばらと捲って読まれるものであり、電子出版化すると読まれなくなるのではないかという懸念は捨てきれません。また、印刷雑誌としての文化を捨ててしまうことの切なさを感じる方もおられるでしょう。日本国内では会誌の完全電子出版はまだ普及していませんが、論文誌ではほぼ100%電子出版化が達成されています。会誌「バイオマテリアルー生体材料」が日本語review誌として生き残っていくためには電子出版はいずれ避けられないものとご理解いただけますと幸いです。会誌の他に、本会編集の「バイオマテリアルの基礎」はすでに電子データ版で公開されており、この後「バイオマテリアル用語集」も40周年記念事業の一環として電子データ版で公開される予定です。

この機会に、これまでの会誌の変遷を振り返ってみます。日本バイオマテリアル学会の発足は1978年12月4日ですが、1979年1月には会報のNo.1が発行されています。これはニュースレターのようなものと推察されますが、これが会誌の

前身であり会誌発行までは、会員への情報提供のために発行していたものようです。そして1983年1月に会誌「生体材料」第1巻第1号が発行されています。最初の編集委員は、川原春幸先生、笹田直先生、前田卓郎先生の3名となっています。しかし、9月発行の第2号では川原春幸編集委員長、笹田直副委員長に加えて、編集委員として井田一夫先生、桜井靖久先生、鶴田禎二先生、増原英一先生、三浦維四先生、山室隆夫先生、横堀武夫先生など23名の錚々たるお名前が掲載されています。さらに下働きで編集実務を担当する委員会と思われる編集実行委員会が設けられていて、その方々のお名前として、前田卓郎先生を委員長として、赤池敏宏先生、大井淑雄先生、大西啓靖先生、中林宣男先生、林紘三郎先生、浜中人士先生など11名が掲載されており、これらの方々が下働きをされていた時代に思いを馳せてしまいます。会誌は1983年1巻から年4号発行され、1990年8巻からは年6号になり、1998年16巻に表紙デザインを変更、2002年20巻3号からは全体デザイン・構成を大幅に変更すると共に印刷所も変更し、解説誌となって原著論文は掲載しなくなりました。2009年27巻からは年4号になり、2015年33巻2号には、全体デザインと印刷所の変更を行って現在に至っています。歴代編集委員長のお名前(敬称略)を下に挙げますが、会誌は編集委員長に加えて多くの皆様の企画、編集などのご尽力によって成り立ってきたものであり、この機会にこれまで編集委員を務められた多くの皆様の会誌への功績に感謝申し上げます。

歴代編集委員長：

川原春幸1983.1～、笹 義人1988.7～、
林 壽郎1993.1～、岡野光夫2002.4～、
山下仁大2004.4～、前田瑞夫2006.4～、
塙 隆夫2008.4～、石原一彦2010.4～、
大槻主税2012.4～、菊池明彦2014.4～、
岩崎泰彦2018.4～

最後になりますが、会誌の電子化に対するご意見・ご批判などございましたら、学会事務局までお寄せいただけますと幸いです。今後の学会運営のために忌憚のないご意見・ご批判をお待ちしております。

学会誌の展開について (アクセス方法と会員へのサービスの向上に向けて)

日本バイオマテリアル学会 編集委員会
菊池 明彦・岩崎 泰彦

日本バイオマテリアル学会誌「バイオマテリアル-生体材料-」をお読みいただき、誠にありがとうございます。

当学会誌「バイオマテリアル-生体材料-」は第36巻2号より電子化されます。これにともない冊子体の学会誌の発送は終了いたします。学会誌の電子化の詳細な経緯につきましては埴隆夫前会長の記事をご一読ください。

学会誌の電子化は時代に対応したシームレスな情報提供や利便性にとどまらず、学会誌の印刷等にかかる経費の大幅な削減も見込めるため、今後学会員のための事業の拡充にも繋がるものと考えております。また、学会誌に掲載される論文(記事)につきましても、カラー図表の挿入や用語検索などを行えるようになり、より正確かつ迅速な情報共有が可能になります。将来的には、動画や音声など、さまざまなコンテンツ形式も積極的に取り入れ、会員の皆様のニーズに呼応し

た情報媒体としての価値をより一層高めていくことも電子化の狙いです。

第36巻2号の発刊に合わせて、順次第33巻2号より電子版での閲覧が可能になります。

* 電子版へのアクセス方法 *

学会誌の電子版(デジタルパンフレット形式)は学会ホームページから、ウェブサイト上ではFlash版にて、スマートフォンやタブレット端末ではActiBookというアプリケーションにより閲覧いただけます。1号分でおよそ400MBになります。ウェブアクセスの良好な環境でダウンロードをしてください。Wi-Fiへのアクセスがない環境ではダウンロードに時間を要します。その際の通信料については対応いたしかねますのでご了承願います。

1. 学会のホームページの学会誌閲覧ページにアクセス
2. 学会事務局より発行されるパスワードを入力
3. 閲覧



図1.Flash版見本1(表紙)

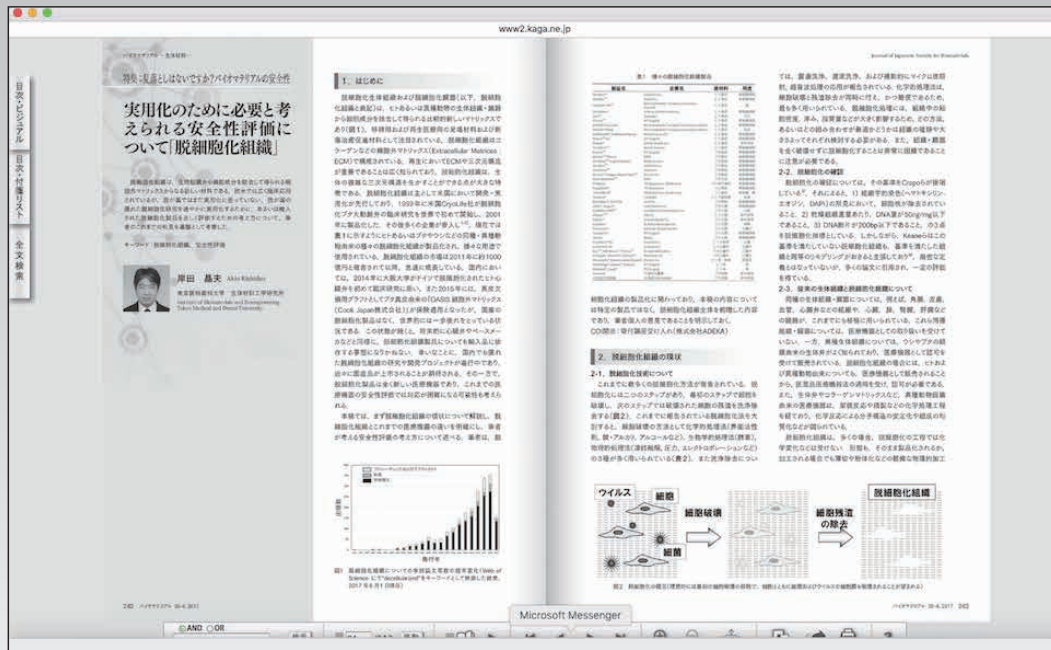


図2.Flash版見本2(記事)

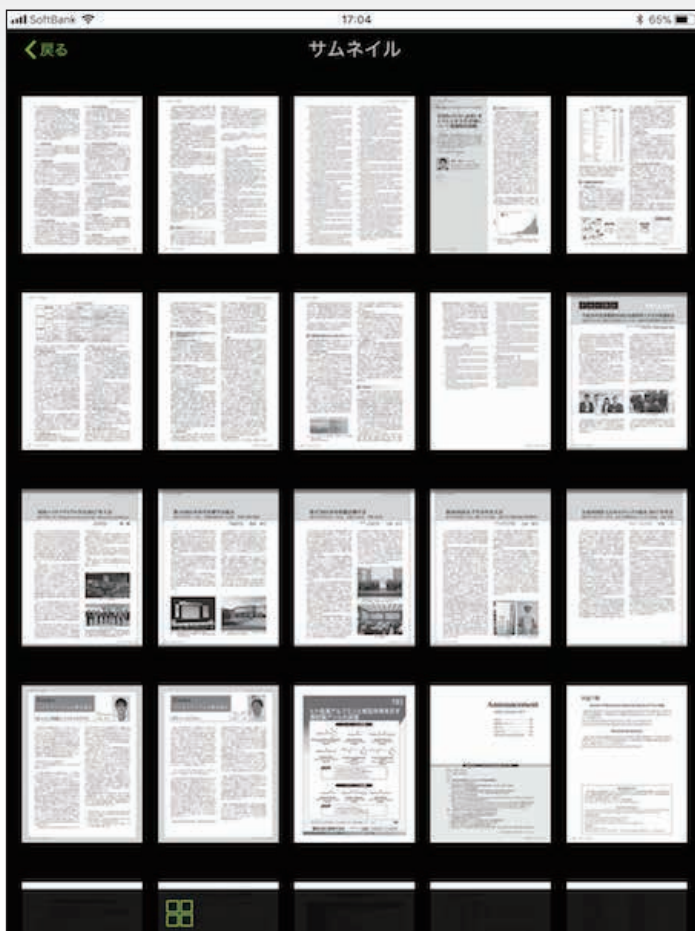


図3.ActiBook版見本(サムネイル)

各ページの拡大表示，印刷も可能です。

＊学会誌の閲覧に必要となるパスワードは事務局より会員の皆様へメールで通知されます。このパスワードは新たな号が発刊されると同時に更新されます。

学会誌の著作権はこれまでと同様、日本バイオマテリアル学会に帰属されます。著者の皆様におかれましては、学術リポジトリ等への登録にあたりまして、最終原稿に掲載誌情報(巻号，ページ，発行年等)を記載の上，登録をしてください。本誌のpdfでの掲載はなされないようお願い申し上げます。